

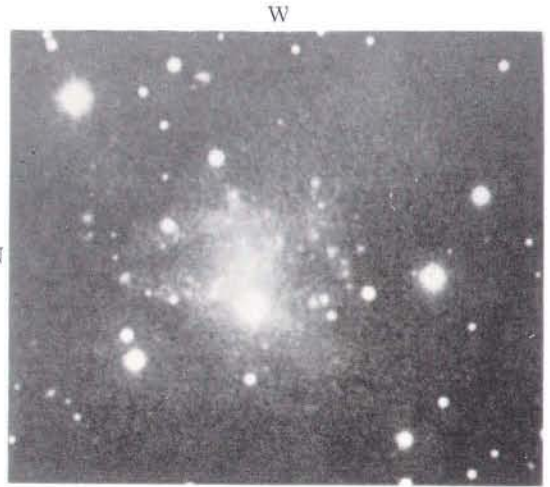
◇ 9月の天文暦 ◇

日	時	記 事
1	8	月 最遠
2	1	土星 月の北 2° 通過
8	11	下弦
8	12	白露 (太陽黄経 165°)
10	16	水星外合
15	2	月 最近
15	4	朔
20	1	土星 衝
21	23	上弦
23	21	秋分 (太陽黄経 180°)
28	10	月最遠
29	3	土星 月の 2° 北通過
30	2	望

星雲めぐり (8)

1938年シャプレーは結合のゆるやかな珍らしい楕円状恒星集団、彫刻室座系・炬座系を発見した。両系は一見星団の様相を示してはいるが、空間的にも規模のうえからも星雲の間であった。このように普通の星雲より全光度が一段と暗く ($M_{pg} \sim -16^m$)、直径も小さな星雲を矮星雲と呼んでいるが、我々銀河系の属する局部星雲群のメンバー (推定メンバーも含む) 20余の星雲中、過半数以上が矮星雲で占められていて、他の M81, M101 等の星雲群でも多数の矮星雲が発見され、楕円・渦巻・不規則等の種々な型があることも知られている。

写真は NGC 1023 (14. h_5 , +38°5) 星雲群に属する矮星雲 8個の中の一つで, Dwarf, 1023 Gr., No. I (Irr-I/Sc) と名づけられていて、確実ではないが渦状構造をも



と推察されている。

	直径 (kpc)	質量 ($10^{10} M_{\odot}$)	密度の対数 (g/cm^3)
普通の星雲 (Sc-Sb-E)	20-30-34	3-15-60	~ -23.6
矮星雲	8	0.05	-24.3

となり、矮星雲は個数では普通の星雲をはるかにうまわるが、質量では全星雲の僅か 1% にも満たないであろうと推定される。小マゼラン雲などは上の平均の値にほぼ近い矮星雲である。

矮星雲の生い立ちについては、推測の域をでないが、初期星雲形成の段階で急速な回転による断片として、質量や角運動量の配分をかなり不公平?にうけた星雲の一族ではなかろうかとの見解などは大変面白い考え方と思われる。(UJ)

東京における日出入および南中 (中央標準時)

IX月	夜明		日出		方位	南中		高度	日入		日暮	
	時	分	時	分		時	分		時	分	時	分
1	4	39	5	12	+11°3'	11	41	63°0'	18	10	18	43
10	4	47	5	19	+ 6.7'	11	38	59.3	17	57	17	28
20	4	55	5	27	+ 2.0'	11	35	55.0	17	42	17	13
30	5	3	5	34	- 2.8'	11	31	51.6	17	28	17	59

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出, 右側は日入に対する値)

分	分	分	分	分	分			
鹿 児 島	+38	+36	鳥 取	+22	+22	仙 台	- 5	- 4
福 岡	+38	+37	大 阪	+17	+17	青 森	- 5	- 2
広 島	+19	+29	名 古 屋	+11	+11	札 幌	- 9	- 4
高 知	+25	+25	新 潟	+ 2	+ 4	根 室	-26	-21

